

# 第11回熱分析講習会報告

## —今後の予定と会員へのお願い—

(企画幹事・東工大) 水谷 惟 恭

表題の講習会が本学会主催で昭和60年5月9、10日に大阪市東区南本町の大阪府商工会館で開かれた。すでに会員の皆様にはご報告(本誌, 12(1), 46(1985))しましたように昨年から年2回(東京, 大阪地区)開催の方式になり, 今年は2年目に入ります。年2回開催ということで, 大阪地区講習会の参加者数については企画幹事や事務局では心配しておりましたが, 講習会の数日前に多くの申込みをいただき, 76名に達し, 昨年の大阪開催の時よりも11名増加しました。これは会員の皆様, 関連企業の方々のご協力によるものと感謝しております。

今回の特徴は次の3件であって

- ①TMAを正式に講習項目に加えた
- ②新進気鋭の方を講師にお願いした
- ③機器を展示された企業にスライドやOHPを使って装置の説明をしていただいた。

①のTMAはDTA, DSCやTGに加えられる汎用性の高い熱分析機器の一つになりつつあることを考えてのことです。②はなるべくいろいろな立場におられる方々に講師になっていただき, 内容の活性化をおこたりにくく進めるためです。③は本講習会の特長である装置の実演を更に効果的に実施するための方法として考えられたものです。今回は出展8社(コロンビヤ貿易, 日製産業, 伯東, シェル機械, 島津製作所, セイコー電子工業, 理学電機)に約5分間, 出展品の説明をスライドやOHPを使って全講習者の前でおこなっていただき, 実演を見学する前に予備知識をもってもらうとの企画です。今回は各社必ずしも十分な準備ができていたとは言えなかったが, 次回からはもう少し時間を長くして, 実質の内容をわか

り易く説明してもらおうとする予定です。

会場は広く天井が高く, 照明や映写設備も行き届いており, 快適な雰囲気です講習会を進めることができました。また, 阪大の崎山研究室には準備や当日の受付やスライド係をお願いし, 手際よく仕事を進めていただきました。深くお礼申し上げます。

さて, 熱分析講習会は会員の皆様のご協力で順調に実施しておりますが, やはり, ニーズに常に答えられる体制を準備しておくことが必要です。第12回の講習会(昭和60年10月16, 17日, 東京・芝公園, 機械振興会館)から, 当学会が全く新しく編集出版するテキスト(「熱分析の基礎と応用」, B5版, 約250頁)を用いて新しい企画のもとに実施する予定にしております。このテキストは小項目方式で一項目が1~2頁で完結し, 全部で約130項目にもなります。さらに講習会の次の日(最初からでは3日目)には熱測定ワークショップを開催することを予定しております。これへの参加は講習会参加とは関係なく, どなたでも参加(参加費はプリント代とお茶代程度自己負担)していただいて特定のテーマについて専門的な討論や意見交換を自由な雰囲気ですていただくもので, 講習会と同一会場で開催しますので, ぜひ講習会参加の折こちらにもご参加いただき, 討論に加わらなくとも, 傍聴されてもよろしいのではないかと考えております。これらのご案内についてはより詳細なプログラムが本誌にのっておりますのでぜひご覧下さい。

当学会主催の行事は企画幹事が中心になっておこなっております。いずれも会員の皆様のものでありますので, ぜひご批判, 提案などを事務局の方へお寄せ下さい。

### 『熱測定』編集委員会

(委員長) 崎山 稔  
 (編集委員) 稲場秀明, 児玉美智子, 高木定夫, 高橋克忠, 十時 稔, 村上幸夫  
 (地域編集委員)  
 板垣乙未生, 小沢丈夫, 草野一仁, 斎藤安俊, 丸田道男, 横川敏雄

熱測定 Vol. 12, No. 3, 1985 昭和60年7月15日印刷  
 昭和52年5月27日 第4種 昭和60年7月20日発行  
 郵便物(学術刊行物)認可

編集兼 日本熱測定学会 松本直史  
 発行人

〒113 東京都文京区湯島1-5-31 第一金森ビル内  
 電話 03-815-3988 振替 東京9-110303